

相馬所長、栗原副所長が現地を激励

三隅発電所(100万kW) 1号定検工事

中国電力

1月6日、相馬所長・栗原副所長が現在定検中の中国電力(株)三隅発電所を訪問し、三隅発電所藤川副所長をはじめ、お客様関係者に新年挨拶をするとともに、今までのご協力とご支援へのお礼を述べた。また工事現地も訪問し、奮闘する長船関係者を激励した。

三隅発電所は単機出力100万kWを擁し、ボイラ・タービンとも長船製となる中国電力の主力火力発電所。

相馬所長から「三隅発電所は中国電力の最重要火力の位置付けにあり、お客様は当社に対し絶大な信頼を持っていただいていることを強く感じた。また、順調に工事が進んでおり、感謝する」と中島現地責任者以下、長船関係者に激励があった。

各種大口工事が輻輳する中、工事は順調に進んでおり、試運転を含め3月末に完了する予定。



三隅発電所藤川副所長（左から4人目）と相馬所長、栗原副所長



相馬所長、栗原副所長と現地長船関係者

シュケイクIWPP (34万kW×3)

1号機通気/併入、飲料水出し達成

サウジアラビア

サウジアラビアシュケイクIWPP発電所建設工事では、昨年より現地工事の最盛期が続いている。

昨年12月23日に飲料水の水出し、同月24日に1号機蒸気タービンの通気、年明けの1月2日には1号機発電機系統への併入を工程通りに達成した。

この工事最盛期の中、1月9日に在サウジアラビア日本大使館の遠藤大使が、同月10日、本社齊藤海外戦略本部長がサイトを訪問し現地指導員を激励した。

工事の主体は、すでに1号機から2、3号機に移っているが、今でも総勢4,500人以上の作業員が従事している。今後は4月末の1号機引渡しに向け、無事故・無災害で達成することを目標に、長船指導員は日々奮闘している。



齊藤海外戦略本部長（前列中央）と現地関係者



併入達成を喜ぶ現地の皆さん